

昔々の そお市

むかしむかし

郷土を知る

社会教育課 文化財係 ☎ 099-482-5958

第29回



誇り高き薩摩武士の娘の物語 ～女と刃の作者 曾於市に眠る～

中

村きい子の『女と刃』という作品をご存知ですか。

「ひとりの刀の重さほども値しない男よ」

と、70歳の主人公キヲが、夫に浴びせた痛烈な決別の言葉が示すとおり、世の習慣に抗った薩摩郷土の娘の苛烈な生き様を描いた作品です。

主人公権領司キヲは、西南戦争での敗戦から数年後に生を受け、藩独特の士族意識と男尊女卑の思想が根強く残る鹿児島で、士族としての誇りを胸に独立の道を模索して生きていきます。そのモデルは、きい子の母安永キヲ（旧姓押領司・明治18年生）で、きい子は、その母の姿をつぶさに見聞きし、『女と刃』の主人公キヲとして投影しています。

中村きい子は、昭和3年3月20日生まれ、霧島市横川町出身の小説家で、代表作『女と刃』は、昭和39年『思想の科学』での連載を経て、同41年に単行本として出版。異彩を放つこの物語は、全国で話題となり、翌年にはテレビドラマ（中原ひとみ主演）にもなりました。

昭和51年、同63年に復刻されていますが、この度、今年3月に筑摩書房よ

り文庫版が刊行、度々、南日本新聞にも取り上げられ、ひそかなブームになっています。

キヲの視点で描かれたこの物語は、令和を生きる我々が読んでも、今なお新鮮で、刀のように研ぎ澄まされたその文章は、冒頭から最後まで緊張感でみなぎっており、かつ深く考えさせられます。興味を持たれた方は、この機会に、ぜひお読みください。

平成8年5月30日、中村きい子は68歳で死去。初め横川町に葬られましたが見守る者がいなくなったこともあり、同25年、きい子の甥で曾於市在住の胡摩ケ野千穂氏により、末吉公園墓地に母キヲと共に改葬されました。

昭和文学史に強烈な1ページを刻んだ作家が、この地で眠っていることは余り知られてなく、『女と刃』と共に、曾於市の新たな歴史の一つとして今後も語り継いでいきたいものです。



中村きい子と猫の平次郎
昭和43年1月撮影



【アクセス】末吉公園墓地
末吉町南之郷226番地2



墓碑